

# 経営にあたって

## 本校の教育目標

### 一人一人が「よく生きる」豊かな学園の創造

#### 「共働・共励」 「共鳴・共感」

#### 1 経営の基本的な考え方

生徒数731名、学級数29の全県一の規模を誇る中学校である。その生徒集団、教師集団の力を結集し、スケールメリットを生かして、生徒が生き生きと活動する躍動感のある学校を目指す。

また、生徒同士や生徒と職員、学校と保護者等の信頼関係を土台として生徒が互いに切磋琢磨し、一人一人が自己有用感をもってその個性や能力を発揮できる、温かくて豊かな学園の創造に努める。

さらに、校訓「よく生きよ」に向かって、合い言葉「共働・共励」「共鳴・共感」の精神をもち、生徒も教師も共に考え、共に行動しながら、これからの変化の激しい社会を生き抜くたくましい生徒を育てると共に、地域の活性化への貢献を目指す。

##### (1) 目指す生徒像

- I 当たり前が当たり前でできる生徒（挨拶、返事、話を聞く姿勢…）
- II 思いやりの心で他と関わるができる生徒
- III 向上心をもって、自分自身を高めようとする生徒

##### (2) 目指す学校像

- I 生徒も職員も学校に来るのが楽しい、明日も来たいと思える学校
- II 生徒も職員も確かな力を付ける学校
- III 生徒や保護者や地域に信頼される学校

##### (3) 目指す教師像

- I 生徒の成長をやりがいに、教育愛をもって生徒と共に歩む教師  
～「共働共励」「共鳴共感」～
- II 授業を最優先し、自らを高める教師
- III 生徒や保護者、地域に信頼される教師

#### 2 育成を目指す資質・能力

- 「よく生きよ」を自ら問い、自分の考えを広げ、深め、表現しようとする態度  
＜学びに向かう人間性・人間力＞
- 自ら課題を設定し、課題解決に向けて他者と協働（共働）しながら新たな考えを創造する力  
＜思考力・判断力・表現力＞
- 獲得した知識・技能を、実社会や実生活において課題解決に生かすことができる力  
＜知識・技能＞

### 3 本年度の重点

- (1) 生徒一人一人が活躍し、学んだ喜びを実感できる授業づくり
- (2) 楽しく安心して学校生活を送るための生徒指導の充実
- (3) 生徒の自主性・主体性を育み、学校の活性化に向けた特別活動の充実
- (4) ふるさと教育を軸としたキャリア教育と大仙教育メソッドの推進
- (5) 職員の多忙化防止に向けた取組の推進

### 4 具体的な取組

- (1) 生徒一人一人が活躍し、学んだ喜びを実感できる授業づくり  
主体的・対話的で深い学びにつながる授業、及び「分かった」「できた」が実感できる授業の実現に向けて、次の5点に重点的に取り組むこととする。
  - ① 「学びのきほん」「大曲中 教えのきほん」等、小中連携に基づく学習指導の充実
  - ② 教師のコーディネートの向上を柱とした教科を超えた研修
  - ③ 一人一台端末の積極的な活用と効果的な活用に関する研修
  - ④ 「授業参観ツアー（全校）」「ぶらり研（教科部）」による日常的な研修
  - ⑤ 他校の授業研究会への積極的な参加、及び授業DVD等の活用による実践的な研修
- (2) 楽しく安心して学校生活を送るための生徒指導の充実  
「学校に来るのが楽しい、明日も来たい」と思える学校づくり、及びいじめ防止、不登校対策のため、次の3点に重点的に取り組むこととする。
  - ① 自己有用感・自己肯定感の醸成を目指し、絆づくり・居場所づくりの取組の充実を図る学級・学年経営と教科指導。
  - ② 毎月の生徒アンケートや生活ノート（わかたけノート）の活用による生徒の実態把握と個別の面談等による教育相談の充実
  - ③ 情報モラル教室、小中連携ノーメディアディの実施等による情報モラル教育の推進
- (3) 生徒の自主性・主体性を育み、学校の活性化に向けた特別活動の充実  
生徒同士や生徒と職員、学校と保護者等の他との信頼関係を基盤にしなが、学級、学年、全校が活力に満ちた一体感あふれる自主的・自治的な特別活動を展開することで、生徒の力による楽しい学校、住みよい学校の創造を促す。
- (4) ふるさと教育を軸としたキャリア教育と大仙教育メソッドの推進  
総合的な学習の時間を中心として地域学校協働活動による地域人材を活用した教育活動（ようこそ地域の先生）を展開するとともに、中学校区教育協議会企画のあいさつ運動、ノーメディアディ、クリーンアップ活動、ビブリオバトル等の小中連携活動に取り組む。また、職場体験学習や大学・専門学校訪問、地域住民、自衛隊、消防署との連携による地域合同防災訓練の実施等により、ふるさと教育を軸としたキャリア教育と大仙教育メソッドの一層の推進を図る。
- (5) 職員の多忙化防止に向けた取組の推進  
県の多忙化防止計画における令和5年度の目標達成に向けて、職員の意識改革を図るとともに、職員情報共有システム（Teams）の活用等による業務の効率化やノー残業ディの実施等により、働き方改革に取り組む。